

## 日常の点検

- ① 走行用エンジン廻りの点検項目を実施します。
- ② 異常音、異常振動がないことを確認します。
- ③ 可動部分に接触しているものはないか確認します。
- ④ コンプレッサーベルト(エンジン側及びモーター側共)の張り、磨耗及び異常音の有無を確認します。
- ⑤ コンデンサー、エバポレーターファンが回っているか確認します。
- ⑥ コントロールパネルの温度表示は適正か確認します。
- ⑦ 輸送中は時々コントロールパネルを見て庫内設定温度を維持していることを確認します。

### 日常点検時の注意事項

項目	内容	作業時の留意事項	予想される故障現象	処置(備考)
ガス漏れ点検	○サイトグラスにより冷媒量を判断できるユニットでは日常点検として実施する。	1. 冷媒量 ガス漏れで冷媒量が不足のときは泡立ちが多く、極端に冷媒不足の時は白く(フラッシュ状態)見える。 2. 水分の有無 モイスチャーインジケータが緑色の場合は正常、黄色の場合は水分が30ppm以上で異常状態。	1. 冷媒量不足 ○冷却不良、不冷。 ○吐出ガス温度の上昇。 2. 水分の侵入。 ○エキスパンションバルブ詰まり。 ○ドライヤ詰まり。	1. 漏れ箇所を点検・修理の上、冷媒を補充する。 2-1 冷媒回収、ドライヤー交換の上、真空引きを実施し、冷媒を規定量チャージする。 2-2 コンプレッサーオイル量も同様に点検補充する。
コンデンサーコイルの洗浄	○コイル汚れによる熱交換の低下防止。	1. 高圧水流を直接フィンにかけるとフィンがつぶれるのでホース水流によるブラシ洗浄とすること。	1. コンデンサーコイルの汚れ。 HPS作動、冷凍能力不足。	1. こまめにコイルの汚れ除去洗浄を実施する。
本体塗装	○長期間使用されたユニット金属部の塗装欠落。錆の発生処置。	1. 塗装面への飛石、キズ等により発生する錆は気付かない間に進行してしまう。 初期の錆はタッチアップで進行を充分防止できる。	1. ユニット外板の穴あき亀裂。 2. ユニット外板の脱落。	1. 錆発生を確認したら、早い時期に該部をサンドペーパー等で清掃の上、タッチアップによる補修を実施する。 2. 穴あき、亀裂まで発展した部品は交換
長時間停止時の注意	○長時間不使用時にコンプレッサーへの冷媒寝込みを減らすことおよびシャフトシールの油切れ防止。	1. ユニートを長時間使用しない場合は、3～4日に一度の割合で15分程度運転する。	1. コンプレッサーを長時間停止しておくと、内部に冷媒液が溜まり込み、これが起動時に潤滑不足を起こしコンプレッサー焼付を起こす。 また、シャフトシール部の油切れにより、冷媒ガス漏れを起こすことがある。	